

# 平成30年度 第1回 黒部市環境審議会

日時 平成30年8月6日(月) 15:00～

場所 黒部市役所2階 201会議室

## 出席者

### (委員)

楠井 隆史	富山県立大学 教授
岩田 善治	黒部川左岸土地改良区 理事
島 武夫	黒部商工会議所 専務理事
森野 泰夫	くろべ漁協協同組合 代表理事組合長
浦田 裕治	富山県環境科学センター 所長 代理 次長 藤崎 進
浅生 秀孝	富山県農林水産総合技術センター農業研究所長 代理 土壌・環境保全課長 小池 潤
田子 泰彦	富山県農林水産総合技術センター水産研究所長
大江 浩	富山県新川厚生センター 所長
稲垣 里佳	富山県地球温暖化防止活動推進員
村田 光朗	黒部市環境衛生協議会 会長
丸田 将揮	黒部市水資源対策協議会 監事
大矢 慎司	黒部名水会 事務局次長

### (欠席)

福島 孝	黒部市農業協同組合 代表理事組合長
舟子 忠明	黒部市自治振興会連絡協議会 副会長

### (幹事)

御田 泰晃	黒部市企画総務企画部長
村田 治彦	黒部市市民生活部長
有磯 弘之	黒部市産業経済部長
島津 博	黒部市都市建設部長
長田 行正	黒部市教育部長
能登 康広	新川地域消防本部 黒部消防署長

(事務局) 黒部市市民生活部市民環境課

## 次第

1. 開会
2. 委嘱書の交付
3. 挨拶
4. 委員及び幹事の紹介
5. 審議事項
  - (1) 会長及び副会長の選出について
  - (2) 企画部会委員の指名について
  - (3) 黒部市環境基本計画の諮問について
  - (4) 黒部市環境基本計画について
    - ①策定方針
    - ②スケジュール
    - ③アンケート(市民用、小学生用)
6. その他
7. 閉会

## 資 料

1. 黒部市環境審議会 委員及び幹事名簿
2. 黒部市環境基本計画の策定について（諮問）
3. 黒部市環境基本計画策定方針
4. 黒部市環境基本計画策定スケジュール（案）
5. アンケート調査の方法
  - 5-1. 市民アンケート
  - 5-2. 小学5・6年生アンケート
    - ・アンケート調査の概要と結果（H20 実施）

### 1. 開会

### 2. 委嘱書の交付

### 3. 挨拶 副市長

本審議会は、本市における環境の保全に関する重要事項について、関連の幅広い分野からご意見やご提言をいただくために、黒部市環境基本条例に基づき設置されたものであります。

今回、皆様にお諮り申し上げることは、計画期間が本年度末で満了を迎える「黒部市環境基本計画」の改定であります。

この計画は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に、平成21年3月に策定しており、この計画に基づき、市民、事業者、行政等が一丸となって、様々な事業を展開してまいりました。

この計画策定から10年目を迎え、新たな課題や情勢の変化に対応するとともに、昨年度に策定された「第2次 総合振興計画」に掲げる「自然と共生し、安全で安心して暮らせるまちづくり」の実現に向けた環境保全の取り組みを推進するため、10年後の2028年を見据え、環境施策のあり方及び施策展開の方向性などについて、環境審議会の委員の皆様にご意見を伺い、来年度3月の策定を目指しております。

環境基本計画策定に関し、関係の各分野から、学識経験者、民間団体や行政の代表者で構成をされており、各分野での豊富な経験と見識を活かし、計画をつくりあげていただきますようお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。

### 4. 委員等の紹介 各委員自己紹介

### 5. 審議事項

#### (1) 会長及び副会長の選出について

条例第26条第2項により、会長を富山県立大学の楠井隆史委員、副会長を自治振興会連絡協議会の舟子忠明委員に決定。

#### (2) 企画部会委員の指名について

条例第29条第2項により、楠井隆史委員、舟子忠明委員、稲垣里佳委員、丸田将揮委員の4名に決定。

#### (3) 黒部市環境基本計画策定の諮問について

副市長 資料2に基づき、楠井会長に環境基本計画の策定を諮問。

事務局 資料2に基づき、趣旨を説明。

#### (4) 基本計画について

##### ①策定方針

事務局

資料3に基づき、策定方針について説明。

会長

上位計画として昨年策定された黒部市総合振興計画があり、それを受けて環境基本計画を策定するのが我々に託されたミッションである。しかしながら、前計画が策定されて10年でいろいろな変化があり、世界的にみると持続可能性というのが非常に大きくクローズアップされてきて、地球温暖化なども出てきており、SDGsでいろんな環境への取り組みが提案されている。富山県では食品ロス削減や富山県全体では海岸漂着ゴミの問題もあります。一方、新しいジオパークをつくっていくという動き、新幹線駅ができたことにより交流人口が増え、騒音が出てきているところが一部あると聞いております。

今日は、第1回目のキックオフミーティングでありますので、各委員の感じておられるごつくばらんな意見を聞かせていただければと思います。

委員

今後の計画策定のテーマになりそうな今年の3つのことをまとめてきましたので、説明させていただきたいと思います。

①8月5日の読売新聞。SDGsの目標が17項目ある。富山市が「SDGs誰ひとり取り残さないモデル都市へ」が新聞一面に載っていた。その中に国の環境モデル都市や、環境未来都市も取得し、さらに国際連合のエネルギー効率改善都市も取得。今年6月、国のSDGs未来都市並びに自治体SDGsモデル事業に選ばれている。世界の先進的なSDGsモデル都市構築に向けて、富山市はスタートしましたと報道がありました。SDGsは外すわけにはいかない。

②8月2日の深夜番組の「NHK時論公論」で、地球温暖化は「水環境の極端化」だと言っていた。富山湾の海水が太陽のエネルギーで蒸発して雲になり立山に運ばれ、冷えて雨や雪が降るといふ、非常に豊かな扇状地に、急峻な地域の水環境がある。豪雨、洪水、山崩れが身近にあり、極端化は無視できない。これから10年の適応策を再整理して、豪雨が来ても被害者は一人も出さない計画を持っているべきだということ提案したい。

時論公論の中に、環境省が7月に、カーボンプライシング、CO2の排出有料化を発表し、経済産業省が7月24日に2050年までに全ての車を電動化するとあった。グーグルやアップル社では、再生可能エネルギー100%を達成したと発表。再生可能エネルギーへの取り組みは、黒部には黒瀬川に小水力発電、宇奈月には蓄電した電気をバスに使用してエコリゾート、エコ温泉、YKKのパッシブタウンがある。脱炭素社会への変革、省エネ、緩和策を考えていくべき。

③1月のセミナーで、名古屋大学大学院の環境学研究科の杉山範子先生の話聞いた。パリ協定で2015年に締結、2020年から具体的な目標達成に向けて196か国が締結したが、2050年まで待てない都市がヨーロッパを中心に出てきた。世界首長誓約、日本版が2015年に発足し、富山市が説明を受けている。静岡県で5市、岐阜高山市が参加している。これは、国の二酸化炭素削減計画をちょっと上回る活動。黒部市ができるものなら手を挙げて、アピール、ブランド化することを提案したい。黒部市が進んだことをやって、黒部市から、富山県から世界に発信する、グローバルな点を計画に入れるといいんじゃないかと思えます。

委員

黒部川の上流の排砂問題がある。今年は、昨年7月の大水で排砂できなかったため、今年は165万立方メートルという堆積量の排砂があった。出平ダムは、1985年にできた日本で初めての排砂口を持つダムで、注目を浴びた。しかし6年後排砂するとヘドロがどんどん出て、漁業補償で大変なことになる。ダムは100年しか持たないのが常識だとすると、黒部ダムはあと何年持つのか。そういうことを考えると峡谷からの土砂が黒部川の三角州に流れ込むと、清流黒部川と言えるのか。環境面で問題がある。

- 委員 ①海洋の近くの浅井戸、深井戸が多少、塩水化を起している。何が変化しているのかはわからないが、何かしら変化している。自然に起している変化なのか、生活の水の使用量の影響なのかかわからないが。水質基準の飲める水でいうと、塩水化を起していることを海辺の方は危惧している。最近、味が苦くなってきている気がするという方もいる。今後の変化を見極めるため、ちゃんとした記録等を取っていく必要がある。変化を把握し、何らかの対策を講じていくべき。そういった指針になるような検討をするようにしてほしい。
- ②エネルギーについて、黒部市は水資源をもっている。水をくみ上げて、熱源として利用し、垂れ流している。それを循環させることによって、汲み上げた水を熱だけ吸収して、地下に戻す地球熱利用は県内で進んできている。循環型社会として環境に優しい技術を取り入れていくべきでないか。
- 委員 小水力発電に携わり、環境基本計画の中では再生可能エネルギーがキーワードだと感じている。そういった中で、小水力は、富山県は、全国では岐阜に次いで2番目の水量と言われている。知事も積極的に小水力に取り組んでいるとのことである。富山県の中で特に黒部川扇状地は水量の多い地域なので、そういった市の中で、再生可能エネルギー、特に水力は意義があると感じている。
- 委員 ①黒部市では、平成7年からリサイクル事業がスタートし、当初ビン・カンだけだったが、その後種類も増え、平成15年には9種類回収できるようになっている。ゴミの量は平成15～16年までは着実にゴミの量が減っていたが、ここ最近は資源物のリサイクル量も横ばい、若干減り気味でゴミの減量も進んでいない。黒部市の自然環境を守っていく上では、いかに市民がゴミの減量化に取り組みやすくできるのか、また資源リサイクルに出しやすくすることを考えることが重要でないかと思っている。
- ②富山市のエコタウンでは、いろんなゴミの再資源ができるようになっている。市民がごみステーションに出せない品物、バッテリーやペンキなどの液体物とかベッドなどのスプリングの入った物が、市のごみステーションで出せなくても、近くの処理場で処分できるシステムが確立されているが、黒部をはじめとした新川地区では、処分方法がわからないという意見も多いので、処分先を作っていくのも大事。
- ③地球温暖化防止については、黒部市では、毎年小学校4年生がチャレンジ10という地球温暖化に対する防止活動を行っている。年に3校、順番に回って取り組んでもらっている。また保育園では、年に1か所から最近では3～4箇所、エコライフ教室として地球温暖化防止に関わる授業を行っている。小学校4年生になったら均等に地球温暖化の仕組みを知ることができるのも大事であり、選ばれた学校だけしか知ることができないのは残念である。この事業は富山県が主催だが、射水市は均等に全員に環境教育を受けさせたいということで、市が県指定の3校以外の予算を負担している実情もあるので、黒部市でも環境に対する教育を均等に受けさせられるような仕組みも大事ではないか。
- 委員 厚生センター、保健所の環境衛生に関する直接的な関与は、浄化槽、旅館の指導、PM2.5、光化学などがある。最近では学校では食育に非常に力を入れているが、人の体に入るのは、食べ物だけではなく、水、空気もセットである。健康増進には環境をきちんとすることが大事で、健康教育と環境教育をセットで考えてほしい。
- 委員 ①黒部においては、黒部川と海岸がある。国土交通省では黒部川が日本で1～2番にきれいな川としているが、黒部川は排砂がある。「地域に愛される、安全で美しい河川・海岸を有するまち」という基本方針があるが、現実問題としてきれいな時はきれいだが、いかに上流からのダムの流し方を影響ないようにするか、川や海岸は人が来て、

遊んで、魚がいて、そうやって初めていい環境だという。人がよらない環境はよくない。みんなが気軽に遊べる場にしていくべき。

②結構皆さん勘違いされてるが、カドミウムは土壤汚染であって、カドミウムは水への影響はない。そう書かないと、風評が生じる。風評を払しょくするため、カドミウムは水質汚濁ではないことをはっきり書いて、子孫に不安を与えないでほしい。

委員 ①小水力発電については、問題はいくつかある。水田に使う水には、水利権という問題が非常に関わってくる。たとえば道の駅等で野菜を供給するには、温室で栽培しないと富山県ではできないものがある。そういう時は石油を焚くとコスト高になるので、簡単な小水力発電が民間企業と学校との連携で研究されているが、簡単に設置できるもので、水を温めるようなものを、冬は水利権をとってないので、そういう時にとれるようなものを、皆さん理解してやってもらいたい。河川管理では大きな問題。  
②黒部には山林は少ないが、環境保全となると、山林の施策も入れてほしい。

委員 10年前とは違うと感じるのは、食育、エネルギー問題として地産地消や水利権の問題。小水力発電では水利権の壁は厳しく、取り除くことはできないか。包蔵量、エネルギー価値の試算をしたら、黒部川水系では300万Kwの発電能力がある。それだけポテンシャルがあるのに手も足も出ないのはなぜか。  
環境問題として、化石燃料はCO2が出て悪いが、経済が停滞させるのは難しい。うまく切り替えできるような環境基本計画ができると有難いと思う。

委員 30年前の平成元年に黒部市で全国名水サミットが開催され、先月7月上旬に全国では初となる2回目の「名水サミット in 黒部」(第32回全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会)が開催されたことは、当時の名水担当者としてはうれしく思います。  
今回のシンポジウムにおいても、色々なご意見等があったかと思いますが、これらの意見等を「環境基本計画策定」に生かしていただければと思います。  
また、これまで地下水に何がしか携わっており、この地域は黒部川による地下水の包蔵量がかなり豊富であり、地下水がもつ環境にやさしいエネルギー源としての活用の取り組みに期待しています。

委員 ①黒部川扇状地の印象はきれいな場所のイメージ。同年代は、黒部はきれいな場所だと思っているはず。  
②黒部は何年か前に土壤汚染復元工事は終了し、ポチポチ指定は解除されるのではないか。以前の計画には出ているが、次の計画にはなくなるものと思っている。黒部の復元工事は素晴らしい工法でやっていたので、カドミウムの地下水への影響はないものと思っている。  
③アンケート調査のお子さん向けの中で、「田畑が多い(1-②-1)」などの質問に対応して「周りに緑や生き物が多い(1-②-2)」という質問をリンクし、田畑が多いから周りに生き物が多いんだとわかるようにしてもらおうと嬉しい。  
④昔からダム洪水調整機能などの多面的機能が言われてきており、そういうものも実際あることを入れたらいいと思う。  
⑤田畑の炭素貯留効果について、森林は炭素を吸収することは知られているが、田畑もそういう効果があることを研究所、国、他県と共同で研究している。田畑が環境に影響していることを入れてほしい。

## ②スケジュール

事務局 資料4に基づき、スケジュールについて説明。

委員 3月の計画策定後も委員の任期があるが、どういう役割があるのか。

事務局 2年の委員委嘱期間であり、計画策定の後の役割は、いろいろな環境調査のデータの確認も本来なら皆さんにご意見をいただくべきなので、計画が策定されてからは、そういった確認も出てきますので、お願いしたい。

### ③アンケート

事務局 資料5、5-1、5-2に基づき、アンケートについて説明。

事務局 補足ですが、市民アンケートは差替えになっておりますが、項目は、15年前とほぼ変わっておりません。少し環境への項目の追加がある。今回はもう少し精査し、現在に合うように表現なり項目なりを加工していきたいと考えている。

事務局 先の小池さんからのご意見については、集計解析でわかるようにしていきたい。

委員 ①一般アンケートには住所地を特定する設問はないが、小学生には住所指定がある。これは小学生を住所指定したいという思いがあるのか。それであれば、一般アンケートにも入れてもよいのではないかと。  
②500名を選ぶ際、地区別の人口割合に合わせ抽出を行うなどの検討はされているのか。

事務局 ①市民アンケートについて、小学生アンケートに合わせ住所指定があったほうがよいということであれば、追加したいと考える。小学生アンケートは、チャレンジ10事業の効果を見るためにも、学校名を記載してもらいたい。  
②地区別の人口割合で行うことについては、委員の意見をいただいて判断したい。

委員 海岸付近に住んでいる方、山地や田園地域に市街地に住んでいる方で環境に対する意識も違うので、地域まんべんなくアンケートをとられたほうがよい。

事務局 委員の意見を参考にして検討したい。

## 6. その他

事務局 アンケート等に関する委員意見の受付、委員報酬について説明。

## 7. 閉会

以上